



## 高校1年生に自衛隊の仕事を紹介

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、9月3日（月）に浜松開誠館高等学校（浜松市）キャリアデザインコースの1年生118人に自衛官に関する「職業講話」を実施した。これは同校が毎年行っているもので、さまざまな職業で活躍する講師から話を聞き、生徒が自らのキャリアデザインに役立てることがねらい。

当日は浜松出張所長・村上雄一三等空佐と、同校の卒業生で現在は板妻駐屯地（御殿場市）第34普通科連隊に所属する佐藤友津基一等陸士が講師となった。

村上3佐は自身の経歴紹介の後、公務員制度や自衛隊の任務を、写真などを使いながらわかりやすく丁寧に説明し、佐藤1士は、自衛隊での生活や訓練の様子について自身の経験を踏まえて説明した。

最後に佐藤1士は集まった生徒に対し、「自分でしっかり情報を集め、後悔しないよう進路を考えて」とアドバイスを送った。

生徒からは「どのような試験対策をすれば自衛官になれますか」「訓練は厳しいですか」などの質問が寄せられ、佐藤1士は質問一つ一つ丁寧に答えていた。

講話を見守っていた佐藤1士の在校時の恩師は「自衛隊に入隊し、見聞違えるほど成長した。元気に頑張っている姿を見るのができて嬉しかった」と、たくましくなった佐藤1士の姿に感激していた。静岡地本は、今後もさまざまな機会を通じて各学校との関係を深めるとともに、若者に自衛隊の魅力を引き正しく丁寧に紹介していく。



## 焼津水産高校2年生が自衛隊でインターンシップ

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は、9月25日（火）から27日（木）までの間、焼津水産高等学校（焼津市）のインターシップを支援した。

今回参加したのは、将来自衛官を志望している2年生2人。初日は、地元焼津市の航空自衛隊静浜基地を訪ね、生徒たちは広報担当者から基地の概要説明を受けた後、パイロットの操縦教育で使用しているT-7初等練習機と消防小隊を研修した。消防小隊では防火服を試着し、「重量感があり、これを着て消火作業するのはとても大変だなと思った」と感想を話していた。

2日目は、御殿場市の陸上自衛隊板妻駐屯地を訪ね、グラウンドで隊員が行っていた格闘訓練を見学。生徒たちは格闘訓練を見たのは初めてだったようで「迫力があってすごい」と終始見入っていた。

最終日は、神奈川県横須賀市の海上自衛隊潜水艦を研修した。生徒たちは海上自衛隊の役割や潜水艦の任務などについて説明を受けた後、潜水艦「うずしお」へ。艦内の狭さに驚いていたものの、装備品や設備に関心を寄せ、食堂や乗員の寢室、エンジンルームなどを見学し、潜水艦では海上自衛官が狭い環境で任務を実施していることを体感していた。

インターンシップを終えた生徒たちは「自衛隊の魅力が改めて感じた」「陸・海・空すべての自衛隊を見ることができたが、どこに入隊しようか迷う」と話していた。

静岡地本は、今後も各学校と親密な関係を築き、多くの若者に自衛官として入隊してもらえよう業務に邁進していく。

静岡地本は、今後も各学校と親密な関係を築き、多くの若者に自衛官として入隊してもらえよう業務に邁進していく。



## 卒業生が母校で自衛隊の魅力をPR

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・定免克己一等空佐）は9月29日（土）、城南静岡高等学校・中学校（静岡市）で行われた「平成30年度城南祭」において、同校卒の自衛官とともに広報活動を実施した。

城南祭の会場は生徒や多くの来場者で賑わい、静岡地本は自衛隊広報ブースを開設して、73式小型トラックをはじめ、隊員が野外行動時に使用するリュック（背のう）や災害派遣活動のパネル展示などを行い、自衛隊の活動に対する正しい理解の促進と生徒たちの防災意識の高揚に協力した。

当日は、平成28年度に同校を卒業した平林英士1等陸士（富士教導団偵察教導隊）と今村美波1等陸士（第32普通科連隊）が自衛隊広報ブースに駆けつけた。日頃の訓練で使用している実際の背のうの重さを一人一人に体感してもらいながら、40キロ行進などの訓練での苦労話や日々の業務内容などについて、後輩や来場者に分かりやすく説明した。

広報ブースを訪れ、成長した2人の姿を見た恩師からは「在校時よりも姿勢が良くなり、しっかりとした対応に感心した。自衛官になってこれほど立派になるとは」と驚きの声がかかれ、後輩は「制服姿の先輩から直接話を聞き、訓練で使う道具に触れるなど貴重な体験ができた。先輩のような立派な自衛官になりたい」と話していた。

静岡地本は、地元出身隊員と連携を図り、各学校の文化祭などを通じて自衛隊の魅力を多くの生徒や教員に正しく伝えて、自衛官になるための「進路の羅針盤」となるように努めていく。

